岩手県滝沢村

大　畑　遺　跡

—昭和48年度調査報告—

昭和48年10月

滝沢村教育委員会

岩手県滝沢村

大　畑　遺　跡

—昭和48年度調査報告—

草間俊一
菊地常雄
袖林邦夫

昭和48年10月

滝沢村教育委員会

序　　文

滝沢村の中でも、駒形（蒼前）神社を中心とする上鵜飼地区は、最も遺跡の多い所で、早くから土器や石器が発見され注目されておった所であります。

近年宅地造成等の土地開発がすすみ、埋蔵文化財の包含地が破壊されてゆくのを憂い、早急に調査し、記録によって保存すべきだという要望も高まり、当教育委員会としても文化財保護の立場から、今回大畑遺跡の発掘調査を実施することにいたしました。

早速、土地所有者三上昭太郎・三上長之助・牛抱敬一郎の三氏に、発掘について協力をお願いしたところ、心よく受諾して下さいました。

この調査を、岩手大学教養部長草間俊一教授にお願い申し上げたところ、ご多忙の毎日にもかかわらずご承引下され、また元姥屋敷小中学校長菊地常雄氏・故矢巾正三郎氏（村文化財調査員）の積極的な調査への協力や、鵜飼老人クラブ会員の奉仕的な協力により調査をすすめることができました。

心から厚くお礼申し上げます。

なお、本報告の作成にあたって、第１章・第４章は岩手大学草間俊一教授が執筆下され、第２章は社教主事袖林邦夫・第３章は滝沢村文化財調査員菊地常雄氏が、それぞれ草間俊一教授の指導のもとに執筆し、写真図版第３図～第８図は岩手大学教養部高橋哲郎氏の協力をいただいたものであります。

最後に、この調査に参加協力下さいました関係各位に深く感謝申し上げて序といたします。

昭和４８年１１月

滝沢村教育委員会

教育長　高　橋　久　雄

目　　次

序　文　　教育長　高　橋　久　雄

第1章　まえがき …… 1

第2章　調査の概要 …… 2

(A)　大畑遺跡の位置 …… 2

(B)　調査の計画 …… 4

(C)　調査日誌 …… 4

(D)　調査区の設定と層序 …… 5

第3章　主な遺物 …… 8

(A)　土　　器 …… 8

(B)　石　　器 …… 9

(C)　土 製 品 …… 9

第4章　まとめ …… 11

図版・挿図目次

図　版

第1　1図　遺跡の遠景 …… 17

2図　発掘の状況 …… 17

3図　地層の断面 …… 17

第2　1図　土器の出土状況 …… 18

2図　土器の出土状況 …… 18

3図　土器の出土状況 …… 18

第3　1図～11　出土土器 …… 19

第4　1図～17　出土土器 …… 20

第5　1図～18　出土土器 …… 21

第6　1図～26　出土土器 …… 22

第7　1図～18　出土土器 …… 23

第8　1図～21　出土石器 …… 24

（第3～第8の図版説明は　　ページ参照）

挿　図

1図　大畑遺跡位置図 …… 3

2図　発掘地点見取図 …… 3

3図　A地区北壁断面図 …… 6

4図　D地区北壁断面図 …… 7

5図　石器実測図 …… 15

第１章　ま　え　が　き

滝沢村は盛岡市街の西北方に位置し、岩手山頂の一部を村域とする広大な村であるが、大半は山地となっている。

その山麓につづく平地の部分は盛岡市街の隣接地として、近年は盛岡市の住宅地として発展し、市と村の境界もわからなくなってきている。しかし、山麓地帯は未だ宅地造成の手はのびていないが、近年の変貌は著しい。

この地域の山麓一帯には縄文時代の遺跡が分布している。中でも上篠木の地域は良好な遺物包含地であったが１０年程前開田で遺跡は壊滅した。

今度調査した大畑遺跡はそれに匹敵する遺跡で、故矢巾正三郎氏がこの地に住んで遺物採集に関心を示したことによって注目された遺跡である。

この大畑遺跡に続く手前の「チャグ・チャグ馬ッコ」で有名な駒形神社周辺にも多数の遺物が散布していたが、その一部外久保遺跡も数年前開田で壊滅してしまうなど、主要な遺跡が何ら調査をしないまま破壊されて行く現状に対して、是非大畑遺跡だけは調査して、保存するようにしたいと希望した。

村教育委員会も近年の遺跡破壊に対し、是非調査し、今後の保存方策をこうじたいと希望を示し調査を依頼された。

私も用事が多く、充分な日程がとれないので、その一部の遺跡を現状だけでも菊地常雄氏と協力して調査を実施することにした。

調査は広大な遺跡のごく一小部分で遺跡の全貌を知るというところまでは到底及ばないが、調査したところの遺物の包含状態は良好で、完 形土器を含む多数の遺物が出土した。

その概要を報告し、今後の調査の参考にしたいと考える。

なお調査に当って教育長高橋久雄氏はじめ社教主事袖林邦夫氏、地元の地主はじめ調査に協力して下さった老人クラブの人々には大変お世話になったことを記して厚く感謝の意を表する。

第２章　調　査　の　概　要

(A)　遺跡の位置

大畑遺跡は岩手県滝沢村大字鵜飼字上鵜飼にあり、通称大畑と呼び、標高２００ｍ内外のところに位置する。

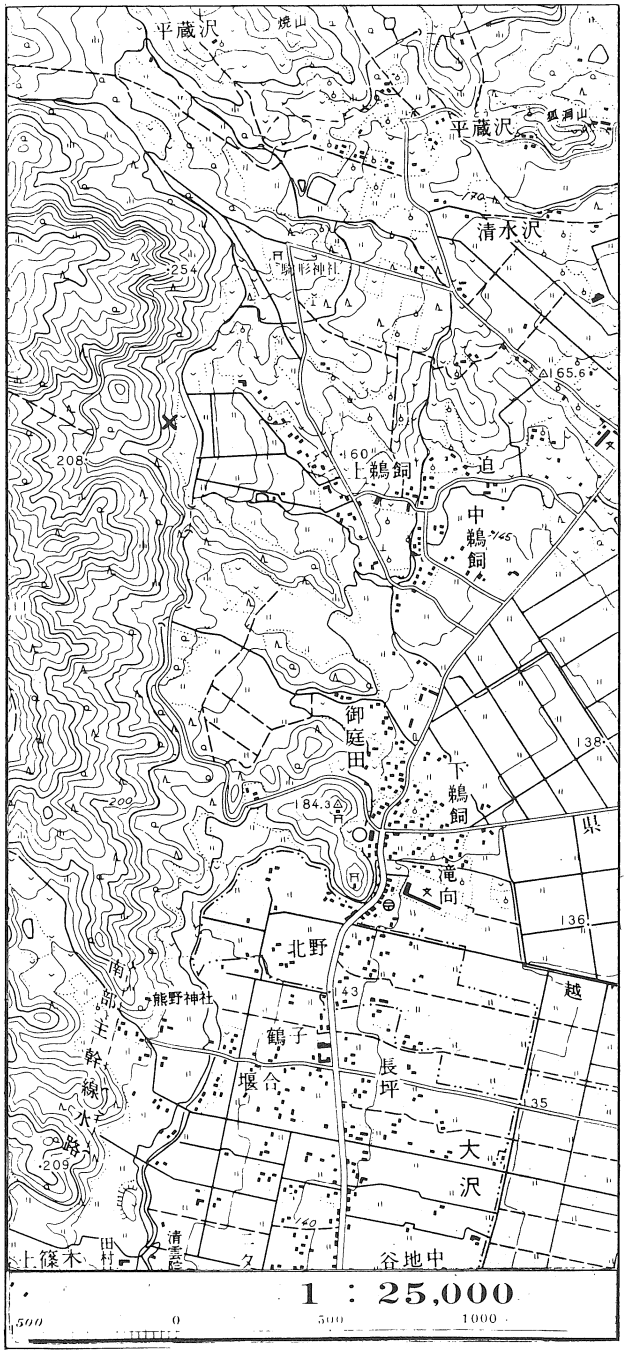
西方に高峰山（標高420.1ｍ）を中心に丘陵地帯が南北に連らなり、その東方山麓に扇状地状にゆるやかな傾斜をもって開け現在大部分は畑地となっている（図版１の１）。

この山麓地帯には遺跡が多く、近くには外久保遺跡（縄文・土師・須恵器出土）があり、他にも土器・石器の破片が表面に出ている所が多く見受けられる。

大畑遺跡の東端は鬼越坂よりの小川が流れ、水の便もよく当時の人間生活には適切な環境であったと考えられる。

後述のように土器の種類も多く、その包含地の面積も１ha 以上の広い面積にわたっていることが推定される。

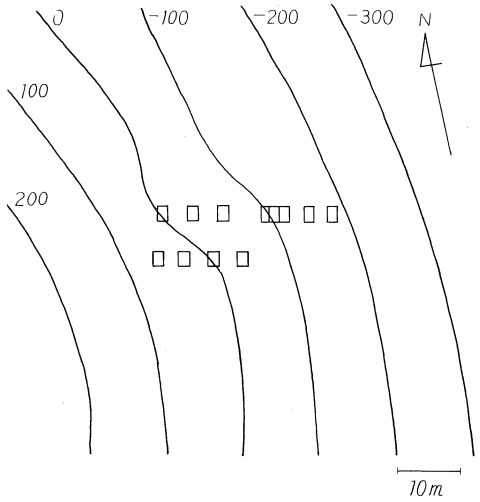
挿図 1



大畑遺跡位置図

×印　遺跡所在地

挿図 2



発掘地点見取図

1　数字は基準杭よりの高さを示す
（単位cm）

2　□印は発掘範囲を示す
（北の方がA，南の方がD）

(B)　調査の計画

発掘調査は昭和４８年４月４日より4月10 日までの６日間実施した。

調査主体

滝沢村教育委員会

発掘担当者及び調査員

草間　俊一　　県文化財専門委員　岩手大学教授

菊地　常雄　　（元姥屋敷小中学校長）

矢巾正三郎　　（村文化財調査員）

調査補助員

三上長之助　　三上　清幸

三上三五郎　　高橋　勝道

三上　辰蔵　　藤村　三太

三上マツエ　　工藤与四郎

庶務・連絡係

袖林　邦夫　　（滝沢村社教主事）

(C)　調査日誌

４月４日（水）　曇り

朝９：３０分教育委員会出発。９：４５分現場着。直ちに作業開始（人夫８人）調査区の設定後、発掘の要領について説明を聞く。

発掘場所－Ａ２・４・６・１０・１２区とＤ１区

発掘状況　Ａ２・４・６区の遺物は少なく調査を終了。Ａ１０・１２区とＤ１区は多数の土器片が出土したので、そこを主として調査する。復原可能２点出土す。

４：３０分作業終了。

４月５日（木）　晴

作業開始９：３０分（人夫８人）

発掘場所－Ａ１０・１２・１４区とＤ１・３・５区

発掘状況　Ａ１０・１２区は深さ４０㎝前後より土器片が集中出土す。その割に復原可能のものが少なかった。石器は石皿他３点と土偶の脚部出土す。

４：３０分作業終了。

４月６日（金）　晴

作業開始９：３０分（人夫９人）

発掘場所－Ａ１０・１２・１４・１６区とＤ３・５区

発掘状況　Ｄ３区より完形土器１点と焼土・木炭片が出土す。作業にも慣れ仕事が順調にすすむ

４：０分作業終了。

４月７日（土）　晴

作業開始９：３０分（人夫１０人）

発掘場所－Ｄ３・５・７区

発掘状況　Ｄ５より石器４点出土す。土器は全般的に出土量が少なく深さ５０㎝で殆んど出土遺物なし。

４：３０分作業終了。

４月９日（月）　晴

作業開始１０：０分（人夫３人）

発掘場所－Ａ１１・１２区

発掘状況　Ａ１０・１２区より多くの土器片が出土したので、その中間のＡ１１区の調査を行う。予想どおり多くの遺物が深さ４０㎝より集中出土す。土器復原可能２点、石器３点出土す。

４：３０分作業終了し本年度分の調査を完了した。

４月１０日（火）　晴

作業開始９：３０分（人夫２人）

午前中調査地の埋立を行い調査を終了した。

（Ｄ）　調査区の設定と層序

⑴　調査区の設定

西側の山麓から東側に扇状に拡がる数ｈａの広い傾斜面の北側のほぼ中央に基準点を設け、それより東西に直線を引き、それより南側を調査することにした。

その基準線より、南側を２ｍ毎にＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ……とし、基準点より東に向って２ｍ毎に１・２・３・４・５……区と地区設定を行った。そのうちのＡ行の２・４・６・１０・１１・１２・１４・１６の８区とＤ行の１・３・５・７の４区の計１２区を調査した。

⑵　層序（図版１～３）

Ａ区・Ｄ区とその層序は大差ないので一括して述べると。

第１層　黒色の表土層で、２０～２５㎝の厚さがあり、現在耕土となっている。土壌の攪乱が著しく、縄文式土器の小破片が散在する程度である。なお、地上の表採で石鏃などが採集されることがある。

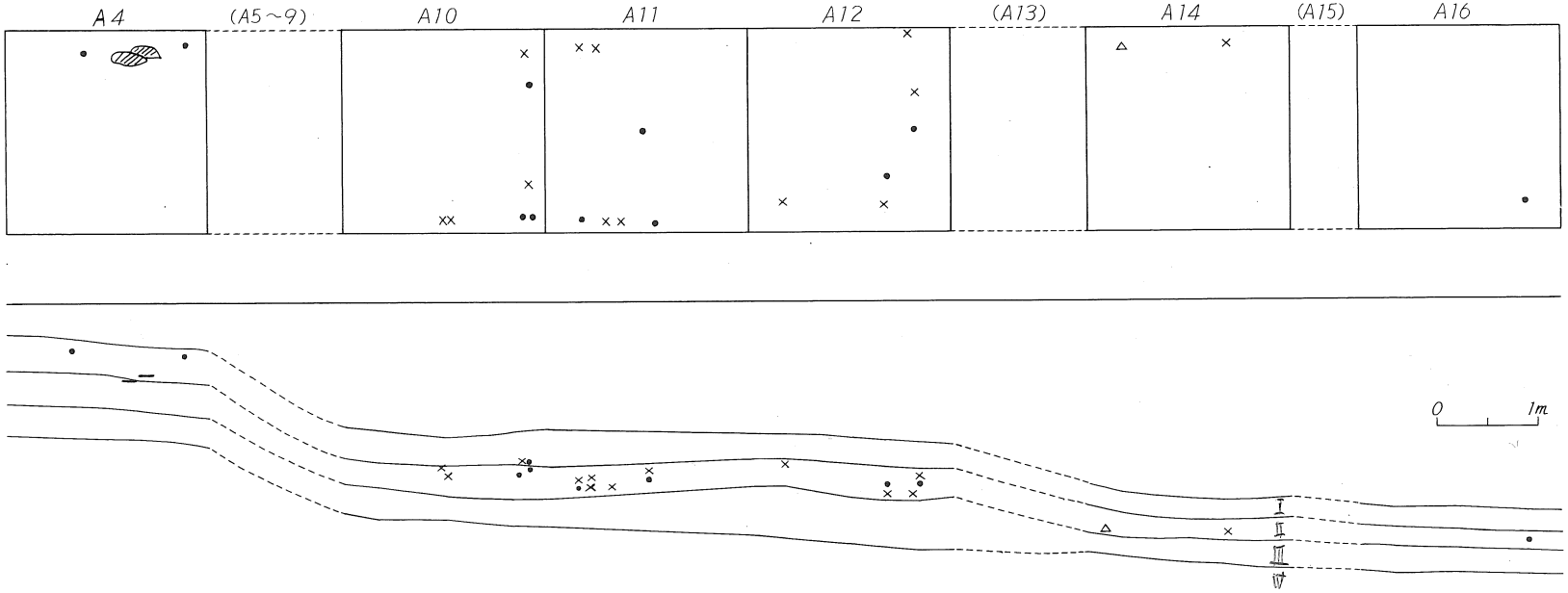
第２層　地表面より２０～４５㎝のところにある黒土層である。この層には最も多くの遺物が包含されており、黒色遺物包含層ということが出来る。

第３層　地表面下４５～８０㎝のところにある黒褐色土層である。この層の遺物包含量は少なく、この層の上部に若干土器が混入している程度であった。それ以下には何らの遺物もなかった。

第４層　８０㎝以下（所により６０㎝）は黄褐色のローム層となっていた。

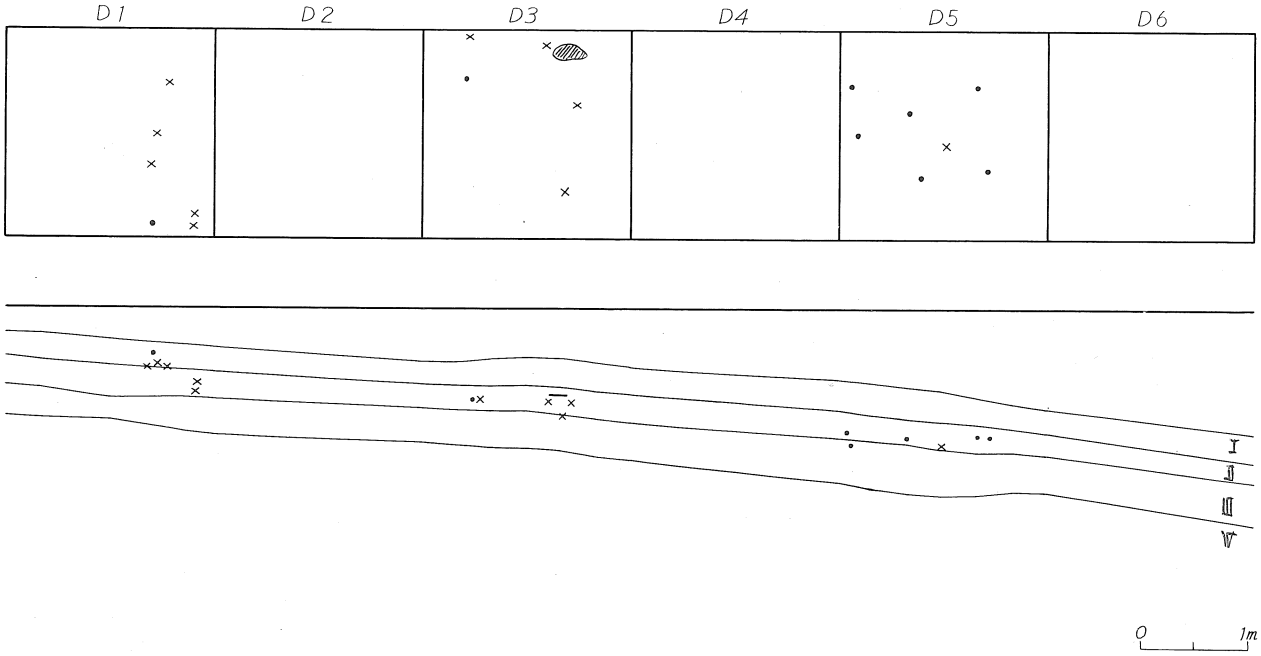
なお、Ａ４区の第１層下、第２層の上及びＤ３区の第２層に４０㎝×３０㎝、厚さ１～２㎝の焼土層があり、周囲に木炭が散在していたが、住居跡（堅穴跡）は確認できなかった。

挿図 3



Aトレンチ4～16区北壁断面図
水糸レベル原点より－100cm
S＝－
Ⅰ　表土層
Ⅱ　黒色土層（遺物包含量が多い）
Ⅲ　黒土褐色土層
Ⅳ　ローム層

挿図 4



Dトレンチ1～6北壁断面図
水糸レベル原点より100cm
S＝

Ⅰ 表土層
Ⅱ 黒色土層（遺物包含量が多い）
Ⅲ 黒土褐色土層
Ⅳ ローム層

× 土器
・ 石器
△ 土製品
焼土

第３章　遺物の概要

(A)　土　　器

今回の発掘調査で出土した土器片は、ダンボール箱で約１０ケあり、現在未整理中のものもあるが、殆んと全部が縄文晩期の大洞式土器である。それに僅か早期の貝殻文土器と、後期末葉の土器が混在していた。これらは層位的な区分は出来なかったが、文様の上から分類すると次の如くなる。

第１類　縄文早期の土器（図版４の１～４）

アカガイかサルボウの貝殻の腹縁の圧痕文（１・２・３）と貝殻の腹でこすってつけた条痕文(4)が第２層より３片出土し、表土より１片採集された。何れも小破片のみで、全形は窺うことは出来ない。

第２類　縄文後期末の土器（図版４の５～１２）

いわゆるコブ付土器に後続する一型式である。(6)はその時期の細櫛目状沈線文である。(7)と(8)は少し変った文様の土器であるがこの時期に併行するものと考える。

なお（１０～１２）は大洞Ｂ式の入組文に発展するものであり、人によれば大洞B_1式またはＢ式の古式としているものである。

また、(7)には丹が塗ってあった。

第３類～第６類　縄文晩期の土器（図版３～７）

第３類　（図版４の１３・１４、図版５）

大洞Ｂ式に属するものと考えられる土器で、文様は殆んど口頸部に集中して、入組文（図版５の１・２６・９・１４・１７）、三叉文（図版４の１４・１５　図版５の３～５・８・１２・１６）、Ｘ文（図版５の７・１０・１１）があり、三叉文では滑沢な面に浮彫的に表現されて口縁に達しているものがあり、小形のものもあったが、概して大形のものが多かった。器形は大部分、鉢・注口であった。

第４類（図版３の１・８、図版６）

大洞ＢＣ式に属するものと考えられる土器で数量共多く出土したが、文様は入組文より変化した羊歯状文が大部分で、多彩で変化に富み、大洞C_1に移行する段階がよく見られる。小型の鉢が多く、装飾文様にに富み口縁に２個一対の小突起のあるものが見られた（図版３の５、図版６の１１）

第５類（図版３の１０、図版７の１～１８）

大洞C_1式に属するものと考えられるものでＢＣ式に次いで多く出土した。

羊歯状文の形式が一部残存しているが首部文様の主体は２本の沈線間を刻み目で埋めた列圧文（図版７の１～４・８・１０・１４・１５・１８）で平行沈線が多く使用されている。

また、胴部の文様として、雲形文が整備されて擦消縄文の手法が効果的に表現されている。

器形には、鉢・台付鉢・皿などがある。

丸底の底面にも浮彫的な文様のあるのが２点出土している（図版７の１２）

第６類（図版７の１９）

大洞C_2式に属するもので、文様として水平沈線が首部にあり、その間に刻み目を入れてある。破片が数片出土したのみである。

なお、この期のものに極小形無文の注口土器（高さ3.5㎝）がＤ１の２層より、瓢箪形土器（高６㎝・巾３㎝）がＤ３の２層より袖珍土器が出土している。

まとめ

今度の調査で採集された土器は以上の如くであるが、この附近で表採した矢巾正三郎氏の資料のうちには、縄文前期・中期と思われるものが多数含まれているので今後この地区の調査を行って、その遺跡としての性格を明らかにしたいと考えている。

（Ｂ）　石　　器

出土した石器の種類は石鏃・石ヒ・磨製石斧・石棒・石皿等である。

①　石鏃（図版８の１）

唯１点のみＡ１０第２層より出土、有柄で精巧なものである。石材は硅質頁岩である。

②　石ヒ（図版８の２～８）

横形が多く、１点(3)はつまみが入念に仕上げられている。完全なものは３点（４・５・７）他は一部破損している。石材は硅質頁岩である。

③　磨製石斧（図版８の９～１１）

４点出土の内、１点(10)はやゝ完全、他は折損している。石材は蛇紋岩・粘板岩である。

④　石棒（図版８の１２～１６）

６点出土、何れも破片のみである。石材は粘板岩である。

⑤　敲石（図版８の１７・１９・２０）

３個が出土している。石の一部面がよく磨滅して使用されたことが思われる。

石材は安山岩である。

⑥　石皿（図版８の２１）

安山岩で作られた４分の１大の破片が１片出土、原形は４０㎝×３０㎝位で縁部は１㎝位高く、中央部は磨滅している。

⑦　小円盤形石（図版８の１８）

円形平型（直径４０㎜、厚さ１７㎜）で用途不明である。石材は安山岩である。

（Ｃ）　土　製　品

土偶（図版４の１５～１７）

・縄文後期安行２式（図版４の１５）のものと思われる胸より下部の破片１点出土、胸部に竹管の押型文

３列あり、脚部は当初より付けないもののようである（６５㎜×３５㎜）。

・縄文晩期大洞B式（図版４の１６・１７）のものと思われるものの破片で胴部３分の１位（６０㎜×３０㎜）全面に唐草模様のあるものと、遮光器をかけているような目と耳の部分の破片が１片出土している。

第４章　ま　と　め

以上今回調査した大畑遺跡の概要であるが広大な遺跡のごく一部分の調査に留まっていて、表面採集によって得られている資料の一部にしかすぎず、今後の調査によって、この遺跡がどのような時期に亘り、どのような性格のものであるか明らかにしていきたいと考えているが、今度の調査は縄文晩期前半の遺物を包含する良好な遺跡であることが明らかになった。

なお、早期の貝殻文は従来知られなかったものであり、今後の調査によってこの時期の良好な遺物包含する場所も明らかになることも予想されるが、一応今度の成果をここにまとめて報告し、今後の研究の資にしたいと考えるものである。

図　版　説　明　（第３～第８）

図版番号	類　別	出土地	層　位	大きさ		
				高　さ	口　径	底　径
3図　1	第４類	A12	2　下	8	10	丸
2	〃	A12	2　下	5.5	6	丸
3	〃	A10	2　上	13	8	4
4	〃	A11	1　下	※ 3.5	※ 7	※ 3
5	〃	A11	2　下	※ 7	※ 5.5	4
6	〃	A10	2	14	11	※ 6
7	〃	D 3	2　下	9	8.5	5
8	〃	A11	2	11	14	5
9	第５類	A12	2　下	21	12	8.5
10		D 1	2　下	3	2	丸
11		D 3	2　下	※ 5	※ 1	※ 2

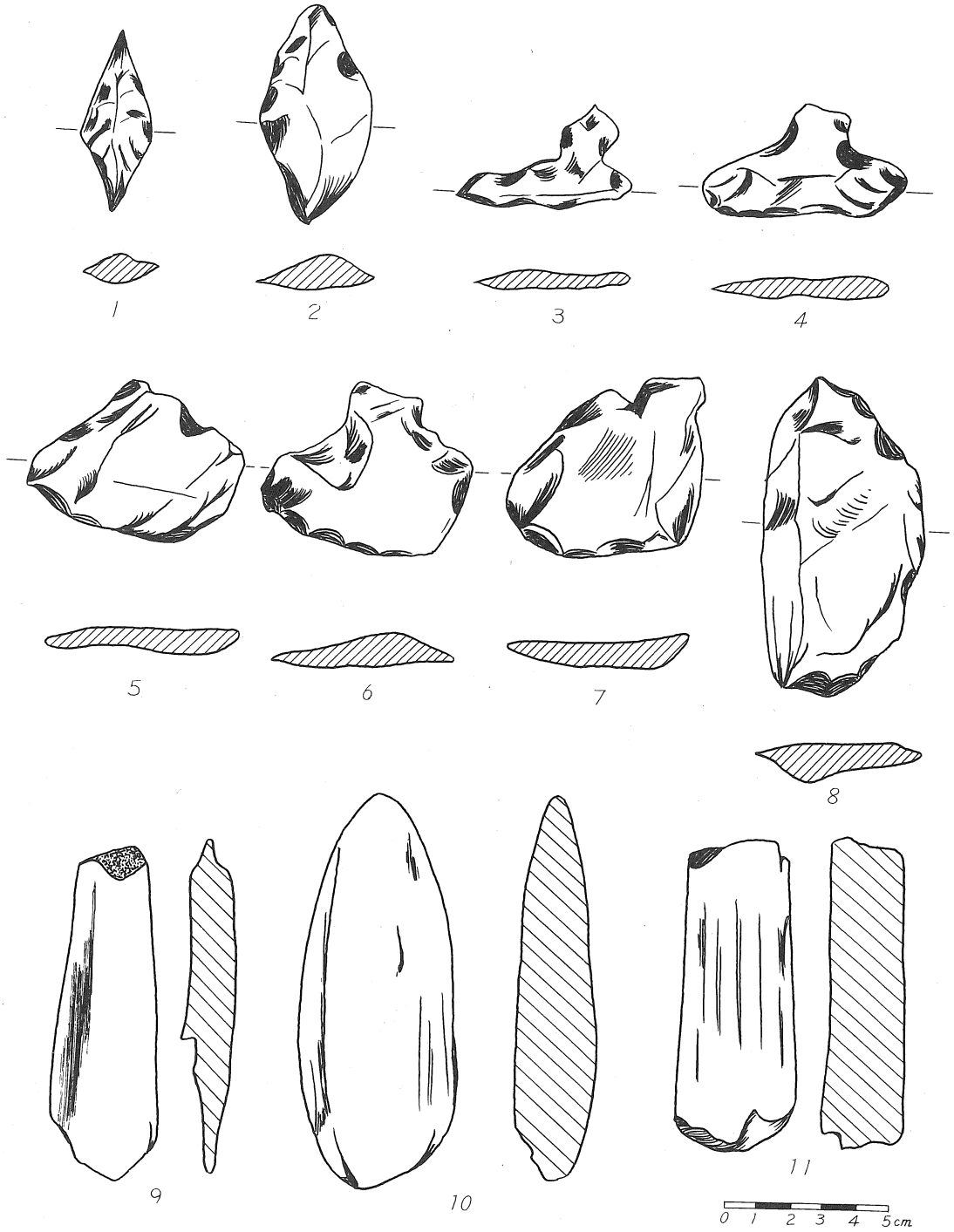
※欠損のため現大きさ記入す。

図版番号	類　別	出土地	層　位	図版番号	類　別	出土地	層　位
4図　1	第１類	A10	表　採	4図16	第３類	A10	2
2	〃	A 4	2　下	17	〃	A11	2
3	〃	A14	2　下	5図　1	〃	D 5	2
4	〃	A12	2　上	2	〃	D 5	2
5	第２類	A12	2　下	3	〃	D 5	2
6	〃	A12	2　下	4	〃	A 4	2
7	〃	D 1	2	5	〃	D 5	2
8	〃	A12	2　下	6	〃	D 3	2
9	〃	A12	2　下	7	〃	D 1	2
10	〃	D 1	2	8	〃	D 5	2
11	〃	D 1	2	9	〃	A 4	2
12	〃	D 1	2	10	〃	A10	2
13	第３類	D 5	2	11	〃	A10	2
14	〃	D 5	2	12	〃	A10	2
15	第２類	A14	2　下	13	〃	A10	2

図版番号	類　別	出土地	層　位	図版番号	類　別	出土地	層　位
5図14	第3類	A10	2	6図25	〃	A11	2
15	〃	A11	2	26	〃	A11	2
16	〃	A10	2	7図 1	第5類	A11	2
17	〃	A11	2	2	〃	A10	2
18	〃	A11	2	3	〃	A11	2
19	〃	A10	2	4	〃	A11	2
6図 1	第4類	D 5	2	5	〃	A11	2
2	〃	D 5	2	6	第5類	A11	2
3	〃	D 5	2	7	〃	A11	2
4	〃	D 5	2	8	〃	A11	2
5	〃	D 5	2	9	〃	A11	2
6	〃	A10	2	10	〃	A11	2
7	〃	A10	2	11	〃	A11	2
8	〃	D 3	2	12	〃	A11	2
9	〃	A10	2	13	〃	A11	2
10	〃	A10	2	14	〃	A11	2
11	〃	A10	2	15	〃	A10	2
12	〃	A10	2	16	〃	A10	2
13	〃	A10	2	17	〃	A10	2
14	〃	A10	2	18	〃	A10	2
15	〃	A11	2	19	第6類	A11	2
16	〃	A11	2	8図 1	石　鏃	A10	2 下
17	〃	A11	2	2	石　匙	A11	2 下
18	〃	A11	2	3	〃	A12	2 下
19	〃	A11	2	4	〃	A12	2 下
20	〃	A11	2	5	〃	D 5	2 下
21	〃	A11	2	6	〃	A12	2 下
22	〃	A11	2	7	〃	A11	2 下
23	〃	A11	2	8	皮はぎ	D 5	2 下
24	〃	A11	2	9	石　棒	A10	2

図版番号	類　別	出土地	層　位	図版番号	類　別	出土地	層　位
8図10	石　斧	D 5	2 下	8図16	石　棒	A 4	2
11	〃	D 5	2 下	17	くぼみ石	D 5	2 下
12	石　棒	D 5	3 上	18	円盤形石	A11	2
13	〃	D 5	3 上	19	たたき石	A	表　採
14	〃	D 7		20	〃	D 5	2
15	〃	D 5	2 下	21	石　皿	A10	2

挿図 5



図版 1

1図

遺跡の遠景

2図

発掘の状況

3図

地層の断面

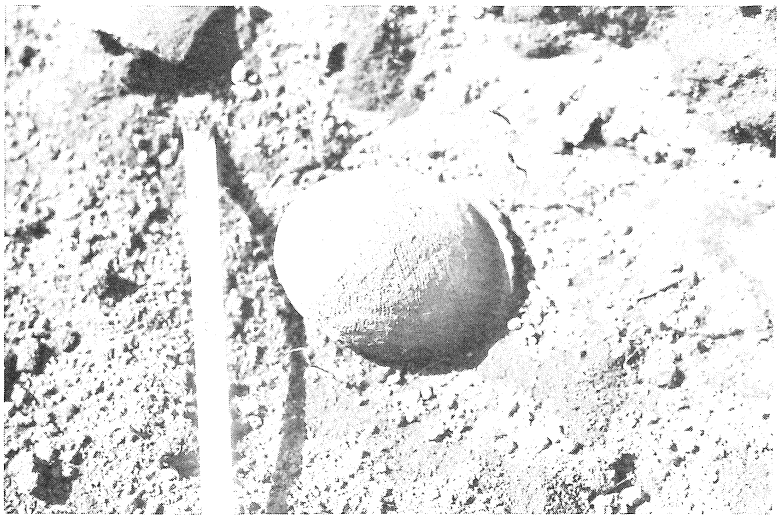
図版２

１図

土器の出土状況

２図

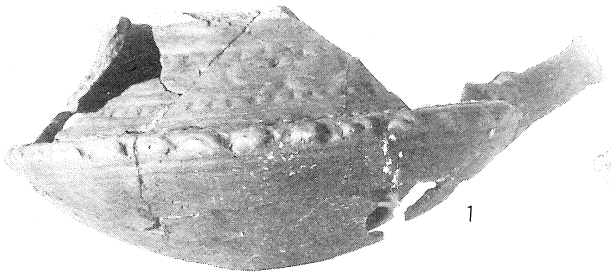
土器の出土状況

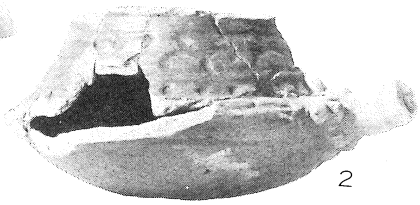


３図

土器の出土状況

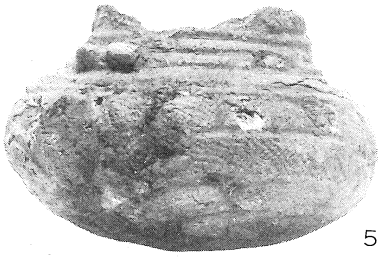
図版３

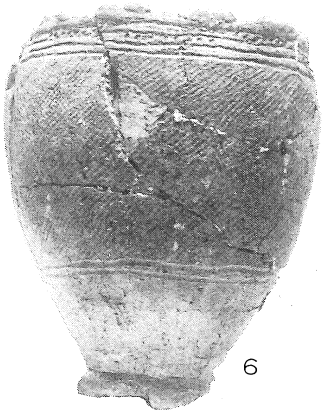

1


2

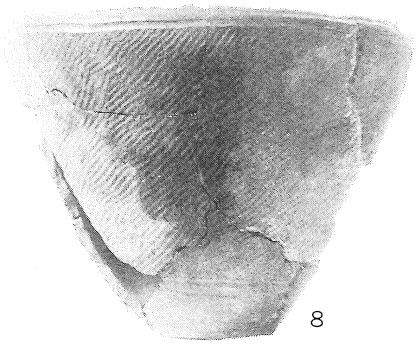
3

4


5

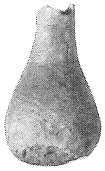

6

7

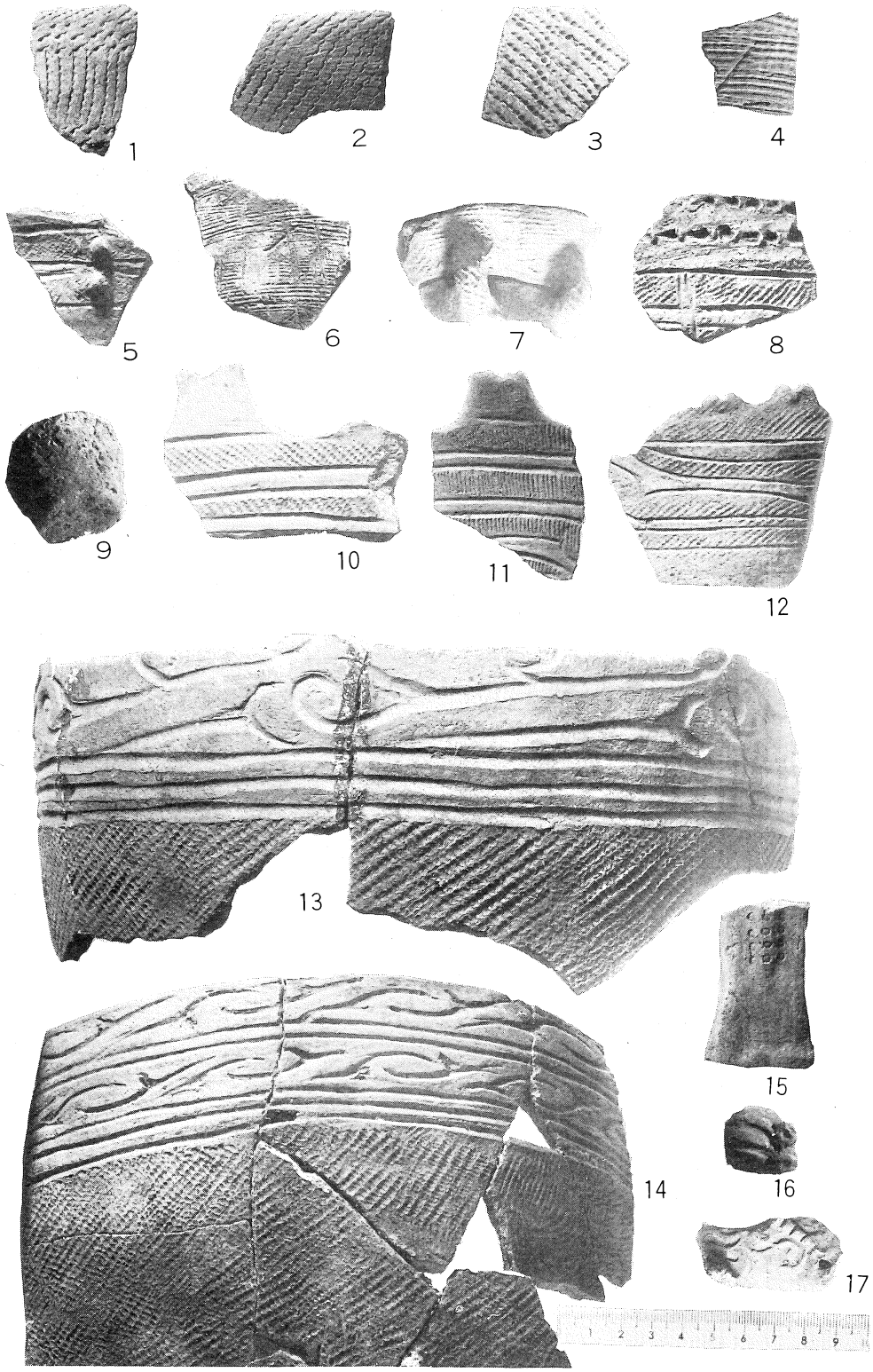

8

9

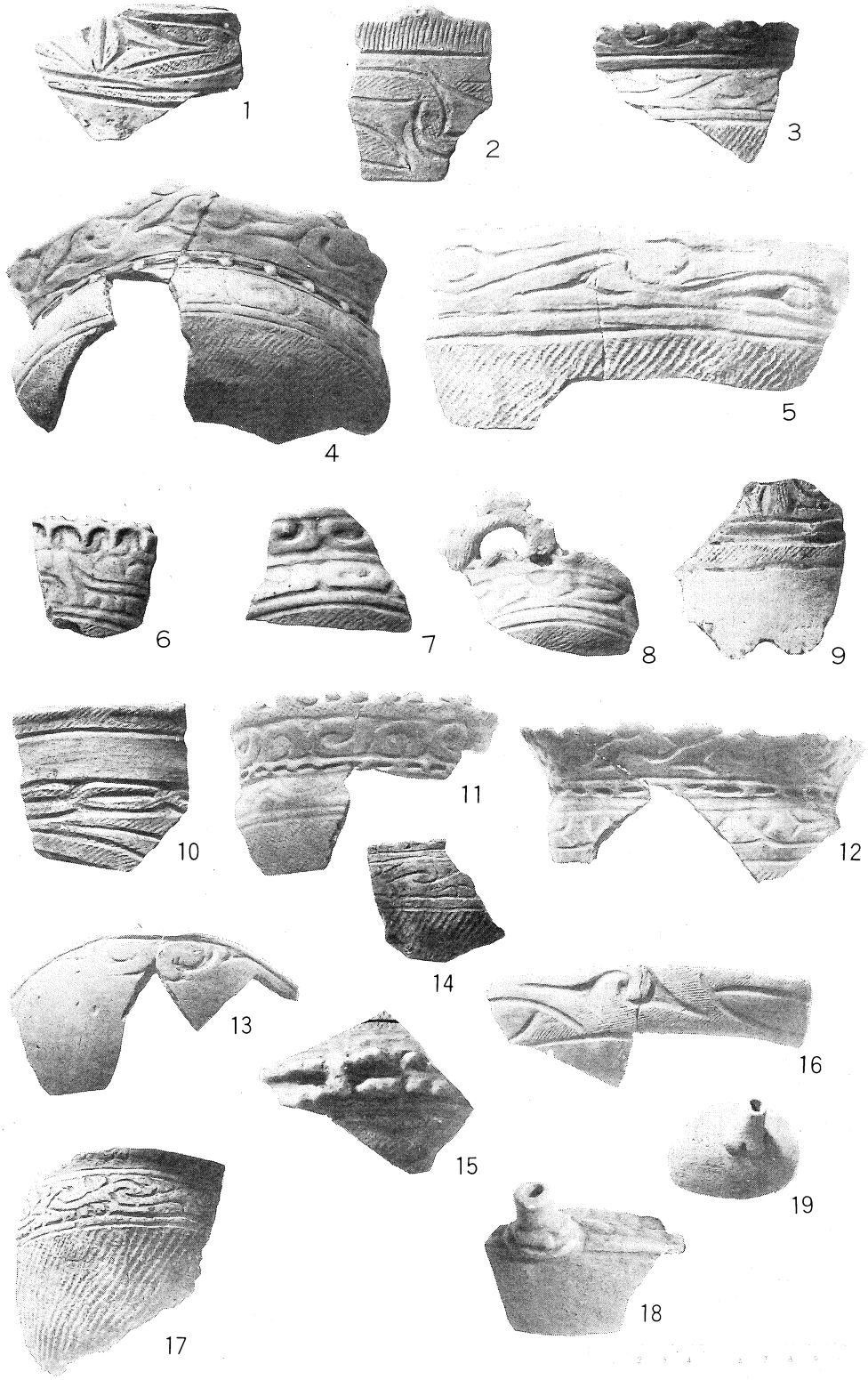
10


11

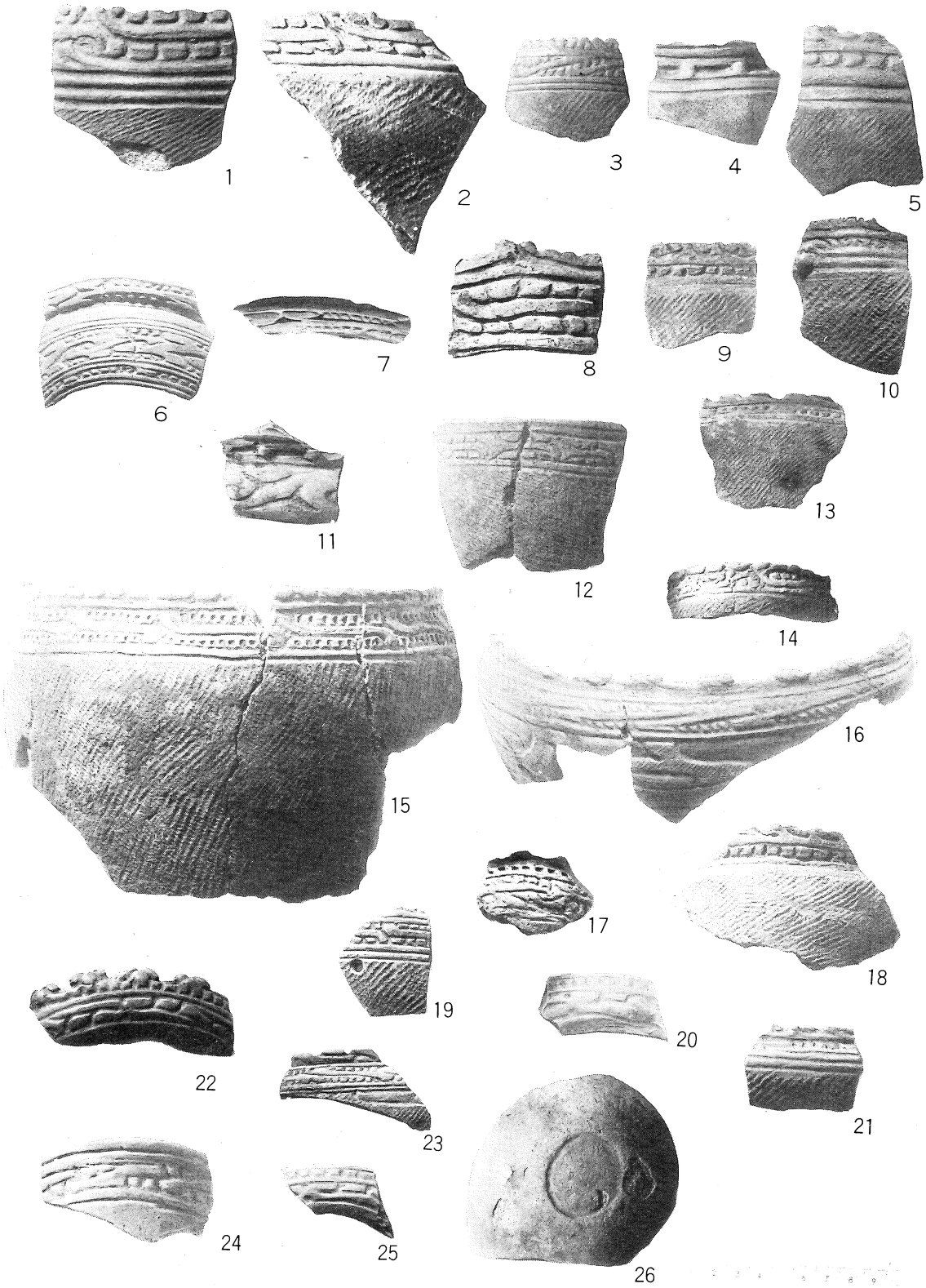
図版4



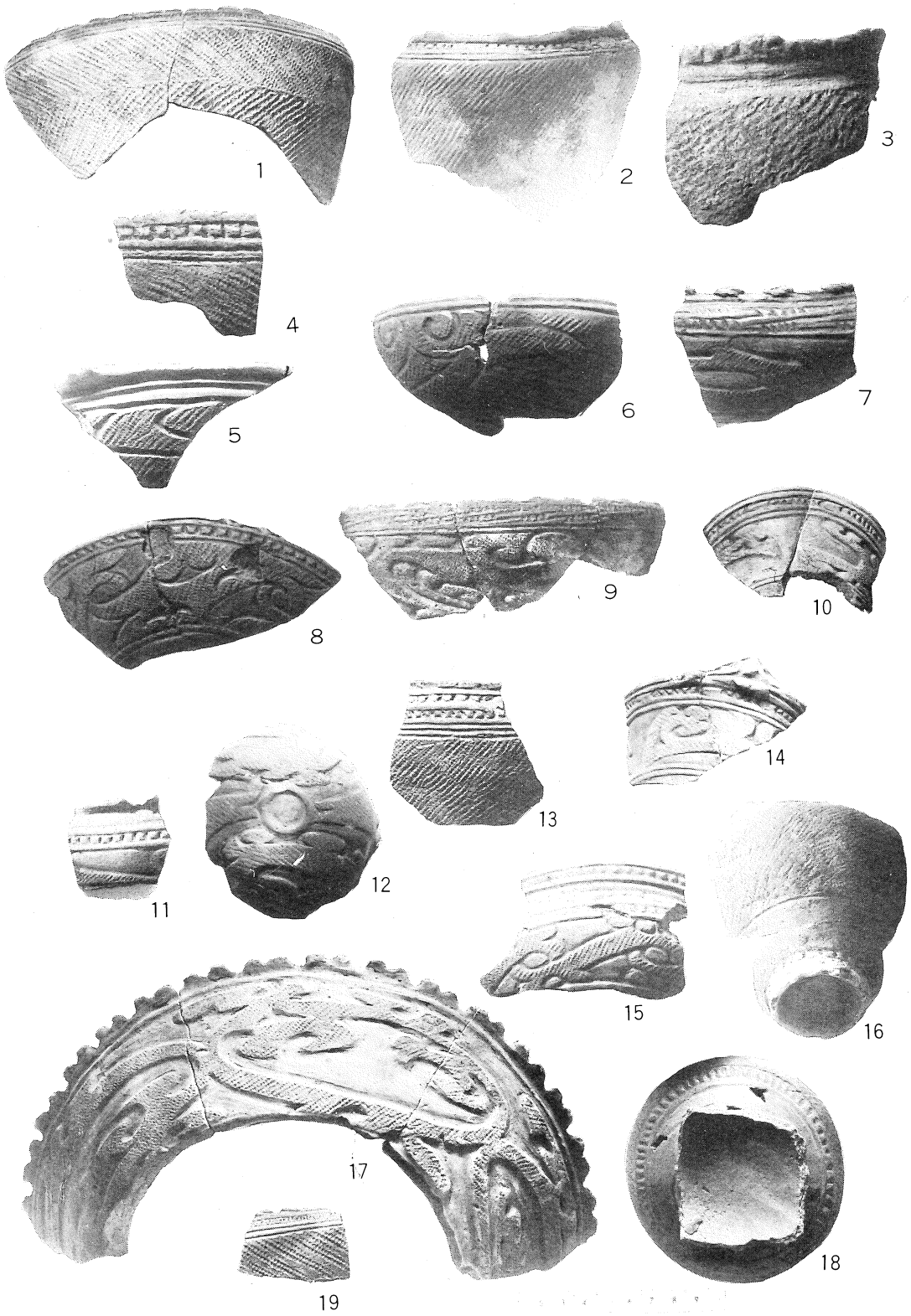
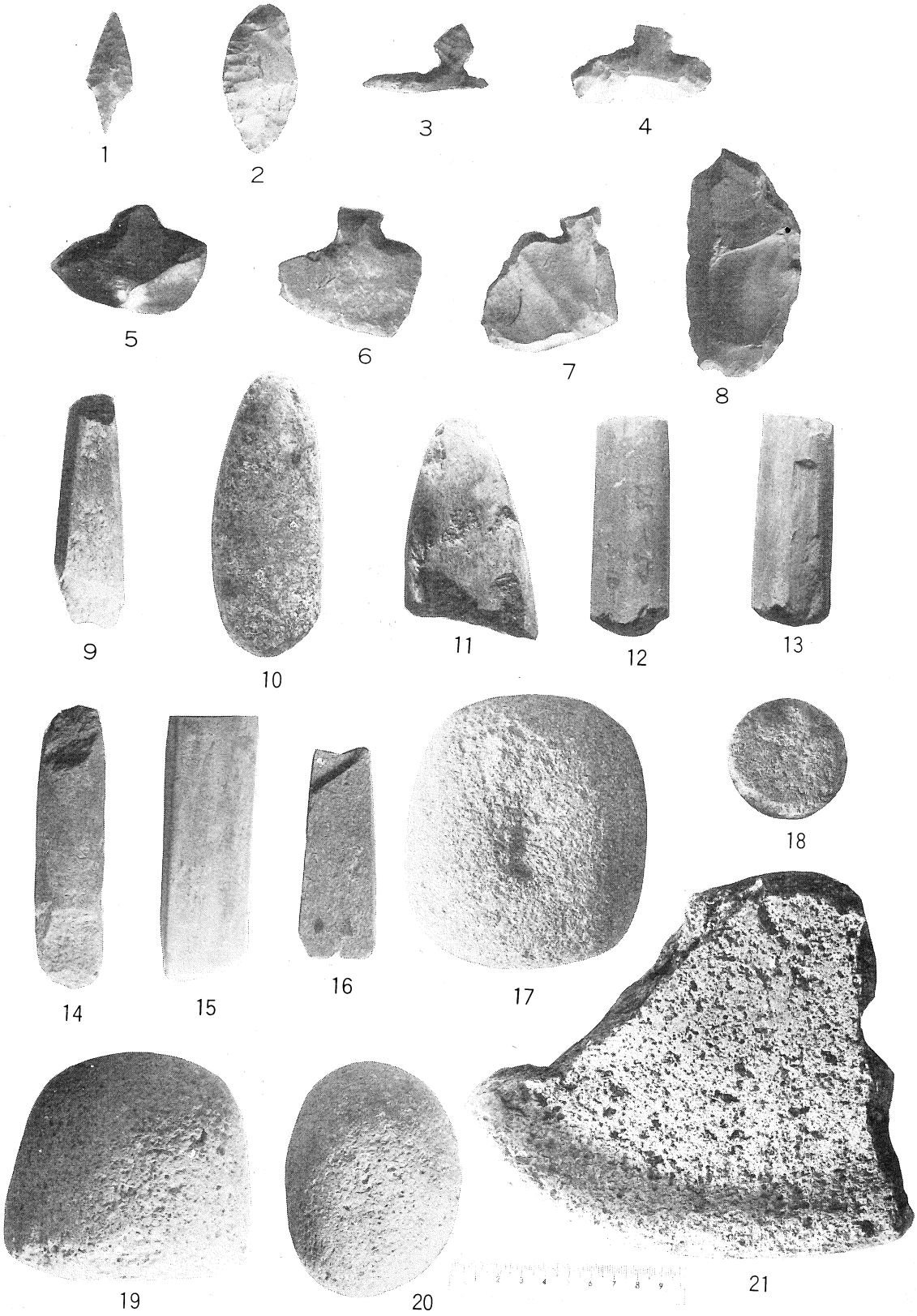
図版５



図版6



図版７



図版８